



薬が効かなくなる?! 抗菌点眼薬の正しい知識

『目やにが気になったので以前処方された点眼薬の残りを使用して様子を見ることがある』

『数回点眼したら症状が改善したので、指示されたよりも早く点眼をやめてしまった』

このような使用方法が、医療の将来を脅かす事態につながっているかもしれません…今回は、感染症と治療薬について動物眼科の領域からお話します

抗菌薬（抗生剤、抗生物質）って何？

抗生剤とは細菌による感染症の治療に使う薬です。細菌の特徴を利用した薬ですので、細菌以外の病原体（ウイルスや寄生虫）による感染症には効果がありません。動物眼科ですと、猫のクラミジアやマイコプラズマによる感染性結膜炎や角膜が傷に感染を起こした時に使用することがあります。そのほかに炎症がひどく二次感染が懸念される場合などに抗菌点眼薬を処方します。

ここが大事！使用方法

細菌感染の場合は原因の菌によって最適な抗菌薬を選択します。抗菌薬を処方された場合は**決められた回数と日数で使用**しましょう。症状が良くなったからといって、途中でやめると感染症がきちんと治らず、**薬剤耐性菌が発生する**リスクが高まります。また、とっておいた抗菌薬を自己判断で使用するとおぼろげ副作用が出る可能性もあります。残っていても開封後1ヶ月で廃棄しましょう

薬が効かない!! 世界的問題、薬剤耐性菌（AMR）とは

細菌は自らを守るために、様々な方法で抗菌薬を無効化するよう変化しています。こうして薬物が効かなくなった菌を薬剤耐性菌と呼び、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）やカルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）をはじめ、様々な菌が世界中で増えています。薬剤耐性菌は人と動物、環境の間で行き来することから、人も動物も環境もおなじように大切であるという『ワンヘルス（1つの健康）』の考え方が重要とされています。

今、私たち獣医師がやるべきこと

この危機的状況を受け、日本のヒト医療では2016年にAMR対策アクションプランが取りまとめられ、これまで普通の風邪の時にひんぱんに行われていた抗菌薬処方をやめる方向にシフトしています。私たち獣医師も、**きちんと説明を行い、ウイルス性疾患など抗菌薬が必要ない症例に使用しないこと、原因菌に合った抗菌薬を選択することが求められています**。また、飼い主の方にも**抗菌薬に対する正しい知識を持って適正に使用することが求められています**。どちらもAMR対策ならびに地球環境に生きる生物の健康にとって欠かせないことだと考えています。

細菌とウイルスの違い

	細菌	ウイルス
構造	単細胞生物	細胞を持たない物質
増殖方法	自力で可能	他の細胞に入り込んで増殖
大きさ	一般の顕微鏡で見える	電子顕微鏡でしか見えない
代表的なヒトの感染症	結核、溶連菌感染症、病原性大腸菌	風邪、インフルエンザ 新型コロナウイルス感染症
動物眼科で見られる主要な病原体	ブドウ球菌、大腸菌、緑膿菌、マイコプラズマ、クラミジア	猫ヘルペスウイルス 猫カリシウイルス 猫伝染性腹膜炎ウイルス
治療	抗菌薬	抗ウイルス薬 (一部のウイルスのみ)

うまくさせない時は相談してワン♪

